

教学 IR 室 広報誌 *Bloomin'*

経営学部1年生（中津川キャンパス）



Photo by 経営学部 大塚健司先生

第1回東濃5市定期ミーティング



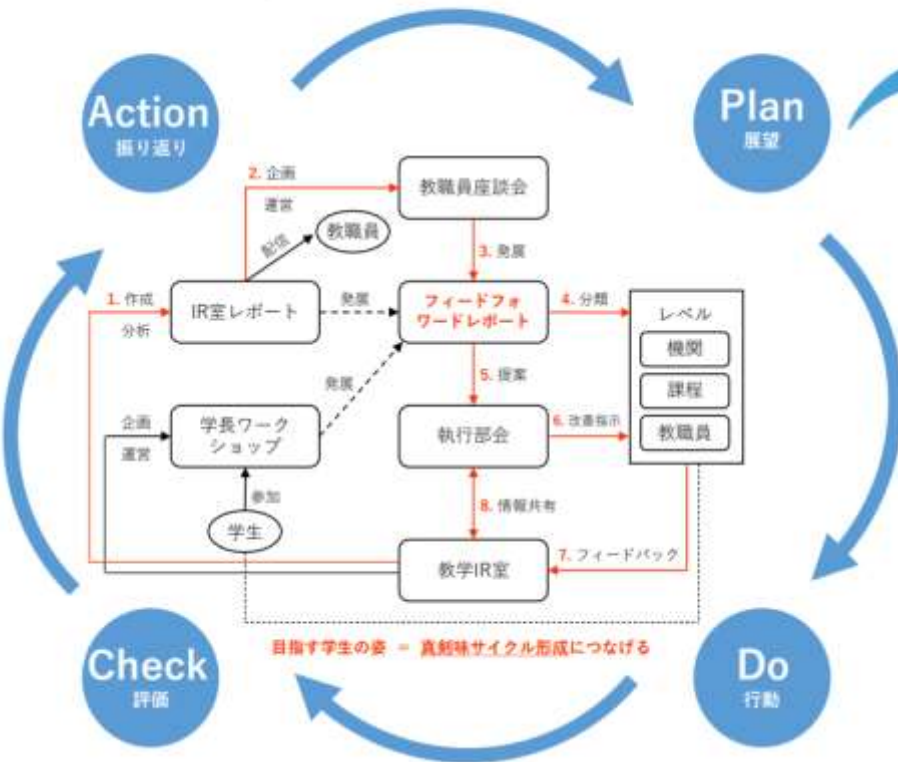
Photo by 経営学部 祝田学先生

NEW

2024年度スタート! 教学IR室 Ring 実施状況



「教学IR室 Ring」イメージ図



- ・建学の精神の具現化
- ・学生の満足度の向上

このサイクル (Ring) は、IR発信の様々な点が点から線につながり、輪 (和) が円 (順) となり、それがどんどん大きくなっていくイメージ。
 また、Ringの「R」はIRのResearch、「ing」はIRが進行中であるという意味を含む。

「教学IR室 Ring」の提案

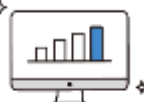
1. 教学IR室がIR室レポートを作成
2. IR室レポートテーマによる教職員座談会の開催
3. 座談会での意見や課題をフィードフォワードレポートに発展させる
4. 教学IR室が意見や課題を各レベルに分類し、フィードフォワードレポートを作成
5. 執行部会に提案
6. 執行部会から各レベルに改善指示
7. 各レベルで検討し、具体的な解決策および実施状況を教学IR室にフィードバック
8. 教学IR室と執行部会で情報共有
建学の精神に則り、本学が目指す学生の姿へ導く次のサイクルにつなげる

【検討課題】					
	内容	機関	課程	教員	その他
1 東濃地域の入学者増加対策					
①	高大連携担当教員による現状と課題の抽出および具体的な改善策	連携推進	経営 看護		
②	中京高校 (医療健康クラス) へのアプローチ ・担当教員へのヒアリング ・医療健康クラスから入学した学生へのヒアリング		看護		
③	経営学部の中京高校へのアプローチ		経営		
2 教員の「距離の近さ」の在り方、講義規律等の見直し					
①	同上				

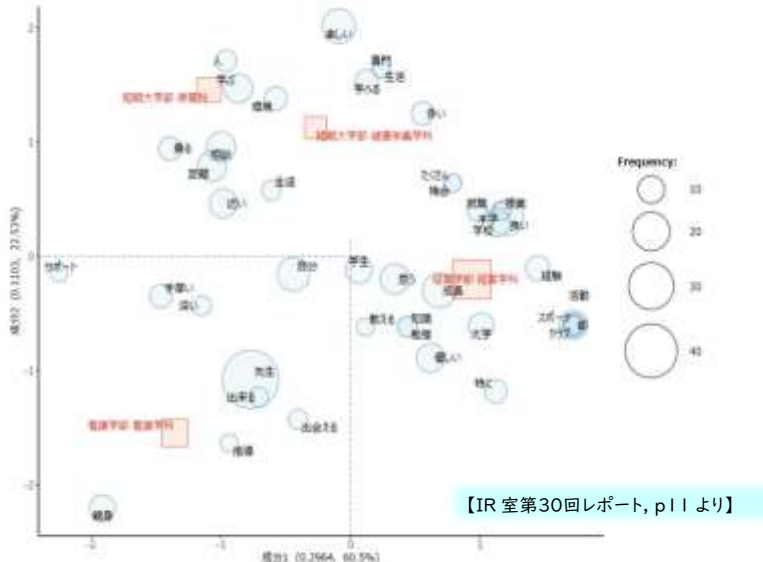
2024年4月に実施した令和6年度第1回座談会「第29回レポート データから見る中京学院大学の現状と課題 (2023年度版)」での意見をもとに、左記の通りフィードフォワードシートを作成いたしました。こちらを5月の執行部会に提案し、**執行部会から該当レベルに改善指示**が出されています。今後の状況につきましても皆様に情報共有して参りますので、改善につながる輪となるようご協力の程よろしくお願いいたします。

ココに注目!

Pick up! IRレポート



2024年度の1回目の「IRレポート(第30回)」のテーマは、「推奨傾向の視点から見る2023卒業時アンケート」でした。母校への愛校心等を見る数値であり、教学中期計画の目標設定にもなっている「後輩への推奨傾向 (以下、推奨傾向) 等の定量的・定性的な分析を卒業時アンケートに基づき行いました。分析結果は、卒業生の「総合的な満足度」や「成長実感」は高いものの、「推奨傾向」はここ3年で伸び悩んでいます。自由記述欄を計量テキスト分析で見ると、推奨 (強く薦めると思う+薦めると思う) でも非推奨 (あまり薦めない、薦めない) でも、教職員との関係性を強く示す結果が見えてきました。教学IR室ではこの推奨傾向の向上に向けた施策を引き続き検討していきます。



【IR室第30回レポート, p11より】

図6 「強く薦めると思う」「薦めると思う」 学科を内添変数とした対応分析

あなたは後輩に本学を薦めますか



令和6年度 第2回教職員座談会（6月6日実施）

はじめに

近年、高等教育機関を取り巻く環境は大変厳しいものとなっております。そのような中で本学では、私学発展の鍵を握る母校への愛着度・愛校心を見る数値として推奨傾向を重要視しています。

今回の座談会は、第三十回レポートをもとに、それぞれのフィールドで長年培ってこられたご経験から感じていること等を3名の方々にお話いただきました。

※ポイントのみ抜粋

教育力・教授力を強みに

「薦める」のキーワードとして「先生」という言葉が挙がっているのはよい。教育の団体として先生がしっかり機能していくことが大切。建物や地の利はよくないが、根本は教育力（指導スキル・アカデミック性）経験値が備わっていることであるため、広報としては学術的な活動や数字を全面に出し、プラスの数値を使用するなど根拠をしっかりとさせながら売っていききたい。教育力のある先生が作る商品に学生であり、その学生が自然発生的に外にPRしていく…という循環が生まれるようになることが望ましい。

今回のようなアンケートの他にコンサルティングも行った方がよい。（和田）

目標達成までの道筋の見直し

定量調査で分かることは少なく、行間や暗黙知に様々な答えがあることが多い。本学の場合、目標やビジョンは明確だがエグゼキュションは？方法論は？という点においては疑問を感じている。企業の視点で言うならば、定量調査に加えデプスインタビューをするべきだと考える。細かく掘り下げることでみてくるものがあるはず。

アンケートの自由回答率が低いため記述した人の意見が代表性を伴うかどうかは不明。限界のある中で最善を目指す。また、現場のPDCAサイクルが機能しているのかという点においては各学部学科の問題だと言える。

IRのみならず、大学全体でステークホルダーに対し（愛知・岐阜の高校、保護者、生徒等々）いずれもの希望に芯を食う大学であるかどうかを考察すること。深掘りすること。出来ていないのであればやらなければならない。（相場）

学びの環境作り

「大学」「学校」を含むコンテキストの自由記述欄は具体的なエピソードを知ることができるが、一人一人受け取り方が異なり改善に結びつけることができないうものもある。

授業規律が乱れることのないよう、学びたい学生がしっかり学ぶことのできる環境作りが大切。（近江）

教学IR室メンバーから一言

教育力の重要性について他部署から指摘されることがうれしい。

今回のアンケート分析では自由記述欄に回答した学生のコメントから良かった点や課題等を取り上げていますが、今後は自由記述欄に回答しなかった学生についても分析対象としていきたい。（大須賀）

仮説検証により、あたりをつけることも必要である。今回のレポートでは成長実感と満足度は高く、推奨度は推奨と非推奨どちらも人が関わっていることから、コミュニケーションの在り方がカギとなっているのではないかと。また、その推奨度についてはマーケティング

ング分野での「帰属意識」が関係しているのではと考えている。（祝田）

アンケートへの未記入者が存在する要因として考えられるのは①記名式であり良くないことを書けない②書いても変わらないだろう③卒業するから関係ない等。細かいヒアリングを行うことがよいのかも（川淵）

まとめ「教育改革に停滞なし」

教学IR室として3年間懸命に取り組んできたが、ここで腰を落ち着けるのはなく、デプスインタビューやステークホルダー全体へのアプローチ等、新たな試みにチャレンジしたい。ステークホルダーの期待に沿った教育活動が行えているのかを確認できるIRにしたい。（林）

経営学部経営学科
特任教授 相場 恵 先生
専門分野：マーケティング
◆(株)電通にて長年ビジネスプロデューサーとして様々な企業のマーケティング・コミュニケーション活動の支援やビジネスのコンサルティングに従事。2023年4月から本学へ。



入試広報部
部長補佐 和田 尚 氏
◆高校教員として36年間教鞭を執る。
2024年3月まで学校法人安達学園
中京高等学校校長。

短期大学部保育科
准教授 近江 秀崇 先生
専門分野：音楽
◆学生と関わるうえで大切にしていること：
教員と学生という関係性でありながらも、
対等な人間同士として、感謝するべきこと
には「ありがとう」、申し訳ないことをしたときは「ごめんなさい」と伝えること。



学長/教学IR室長 林 勇人

CGU 研究 情報

『やさしく学ぶ経営学』
吉沢 正広 編著
第15章執筆 経営学部准教授
祝田 学先生

各大学で経営学関連の科目を担当する10名の先生方が執筆した、経営学やマネジメントについてわかりやすく学べる本書。第15章では、コンピュータのはじまり、インターネットの開発…、IT産業の発達による環境と技術的な変化を、世界170カ国以上でビジネスを展開しているIBMの事例を取り上げながら解説します。

本学メディアセンターに
蔵書あります!



【画像引用】やさしく学ぶ経営学-株式会社 学文社 (GAKUBUNSHA)
https://www.gakubunsha.com/book/b241926.html (2024年6月11日7時)

CHUKYO VOICE



～ 本学に関わる様々な人の声をお届けします ～

1995年の開学以来、今年で31年目を迎えた経営学部。
今回のCHUKYO VOICEは、生まれも育ちも中津川で現在も地元で活躍されている経営学部一期生、(株)福岡城 代表取締役 吉村和久さんです。(1997年卒)

+++++
私は中京学院大学の一期生として入学、卒業してからは建設業の営業としてサラリーマン、現在はサービス業の経営をしております。



本学を選んだ理由は、家業を継ぐため経営学を学びたいためと、中津川が好き
なため、地元の大学で学べる思いが強かったからです。

サラリーマンとして会社の組織の中で活動することや、経営者として会社を継続するためには、「経営学」を学ぶことはとても重要です。今でも経営については、本やネットなどを通じて日々勉強をしています。大学時代にもっと真剣に学んでおけばと後悔することもあります。

大学生活では、先生と共に学ぶことや、部活・サークル活動で仲間と協力して組織をうまく運営していくのも、社会人になってからは「経営」の一つと結びついていくと思います。

大学4年間は長いようで短いです。
何をやるにも少し将来の「経営」を意識するだけで、考え方がかわっていきます。「勉強・部活・遊び」全てに全力に取り組んで、後悔がないように、誇りも持って卒業してほしいと思います。

Information

- ◆2024. 3.31 教学IR室の一年間の活動を可視化した「IRレポート第三巻」発刊!
- ◆2024. 5.29 Mid FM「カナメヤのキャンパスジャックラジオ」生出演!
(経営学部2年:榊田有那さん、学生支援部/教学IR室:川淵怜央さん、経営学部/教学IR室長補佐:大須賀元彦先生)
- ◆2024. 5.31 (株)EXIDEA『So-gúD』にて大須賀元彦先生(教学IR室長補佐)のインタビュー記事掲載。データが導く、大学の新たな未来:
教学IRによる大学教育の変革 - So-gúD(ソウグウ) (exidea.co.jp)
- ◆2024. 6. 8 日本ビジネス実務学会第43回全国大会 発表
(大須賀元彦:経営学部、富田宏:短期大学部、須栗大:経営学部) ※敬称略
発表テーマ「小規模私立大学の教職員におけるデータ活用人材の育成に向けた分析フローの検討」
- ◆2024. 6.20 第1回 東濃5市定期ミーティング開催
東濃唯一の高等教育機関として創設の原点に戻り、地域の声に耳を傾けながら自治体と密な連携を図り地域創生にあたる。(主幹:教学IR室および連携推進部)
- ◆2024. 6.28 令和6年度第1回学長ワークショップ ※短大生対象
テーマ「在学生から見た『本学の魅力・価値』とその進化・深化」
- ◆2024. 9.13 第3回合同IR研修会 in 中京学院大学 瑞浪キャンパス(ハイブリッド開催)
共催:九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学
参加大学:上記の他、文京学院大学、愛知東邦大学
テーマ「中小規模私立大学・短期大学における教学IRの推進に向けた実践的取組」
※現段階での案であり、今後参加大学等に変更の可能性あり。



メインパーソナリティー↑
松井健斗さんと



本学は令和5年度(一財)大学・短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定されました。

本学は令和5年度(一財)大学・短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定されました。

Bloomin' とは?

種を蒔き、芽が出て膨らみ花開くように、
教学IR室の様々な発信が本学の発展につながるようお願いをこめてつけました。



編集・発行

中京学院大学

教学IR室 広報誌 Bloomin'

第5号 2024年6月28日発行

〒509-9195 岐阜県中津川市千旦林 1-104

TEL : (0573)66-3121

URL : https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/

E-mail : ir-room@chukyogakuin-u.ac.jp